



特集

隣国のことばが結ぶ 人と人のつながり

高等学校韓国朝鮮語教育 ネットワークの結成

日本人が外国語として韓国朝鮮語を学ぼうとすると、日本と韓国・朝鮮の文化や歴史が密接に関係してきます。在日コリアンが母国語として学ぼうとすれば、なおさら母国と日本にまつわる歴史を切り離すことはできません。このように日本と深い関係にある隣国とすることばに対する思いを共有する日本の高校教師たちが中心となって、昨年8月に全国的なネットワーク組織を設立しました。全国を三つの地域ブロックに分け、授業実践交流を中心に活動していますが、その活動は高等学校の外国語教育や歴史教育、国際理解教育に波紋を投げかけていくと思われます。今号では、ネットワーク設立前後のいきさつを報告するとともに、韓国朝鮮語教育を支える教師たちの思いの一端をお伝えします。



シリーズ

ことばは楽しい⑦ p.8
ベトナム語

アジアのことばを学ぶ② p.10
六ツ川高等学校の取り組み

見る聞く考えるやってみる授業⑦ p.11
ないところからつくる

二つのことばで語る私の文化論⑬ p.12
企業経営における日本と香港の違い

素顔の高校生② p.16
カメラはメモがわり。自分を確認する
手段です

TJFニュース p.13
全米外国語教師協議会 ACTFL 年次
大会でセッションを開催



隣国のことばと教師たちの思い

1970年代から90年代にかけて、隣国をめぐる状況や日本と東アジア地域との関係の変化、80年代後半からのグローバル化の影響を受けて、日本人の韓国・朝鮮に対するイメージは、隣国の分断状況を反映しながら大きく変わってきたといえます。そうした状況変化のなかで、日本の高等学校における韓国朝鮮

語教育はどう変わってきたのか探ってみました。

この特集で用いる「隣国〔韓国・朝鮮〕は、朝鮮韓半島地域を示します。また、日本でハングル、韓国語、朝鮮語などと称される、この地域のことばを総称して「韓国朝鮮語」と呼んでいます。ただし、引用部分は筆者等のことば遣いのままとします。

在日の教師たち

日本の高等学校に相当する課程を含む韓国・朝鮮の民族系学校として、日本国内に韓国学校4校と朝鮮学校12校があります。これら民族系学校が設立された後^{注1}、73年度に兵庫県立湊川高等学校では朝鮮語の名称で、広島電機大学付属（現広島国際学院）高等学校ではチョンソク「朝鮮」の現地音語の名称で開

講されました^{注2}。その後10年余りの間に韓国朝鮮語の教育を導入したのはすべて公立校で、講座名はいずれも朝鮮語です。70年代から80年代前半にかけて高等学校レベルの韓国朝鮮語教育を担っていたのは、これらの学校だったといえます。

私は在日コリアンの二世です。高校2年のとき、クラス担任が私に、「自分を隠さず本名を名乗り、誇りを持って生きる」と言い放ったのです。「何の権利があって、そんなひどい仕打ちをするのか」。それこそが偽りのない生き方であることを、知らないわけではありませんでした。だが、怖くてそれができない。それから心の中で葛藤が始まり、悩んだ末に堰を切ったようにクラス全員の前で自分の出自と本名を名乗ることになるのですが、そこに至るまでには幾つかのできごとと歳月が必要でした。忌避し続けていた自分の属する民族を自覚し、向き合ったとき、失われた魂を取り戻す営みとして、私は母国語をむさぼるように学び始めていました。私の韓国朝鮮語には、精神的な「元手」が多くかかっています。私だけではなく、「在日」ならば多かれ少なかれ同じような思いを持っているのではないかと思います。

【方政雄（バン・ジョンウン）..兵庫県立湊川高等学校* 朝鮮語教諭】

* 全国に先駆け、普通科の必修科目として朝鮮語を開講（1973年）

非常勤講師の期間も含め、西成高等学校での教師生活10年を入れると、17年も朝鮮語教育に携わっています。多くの在日二世の方々と同じく、私も思春期の頃は自分のアイデンティティの模索に苦しみ、結局は大阪外国語大学の朝鮮語学科に進むのですが、まさかこんなふうに朝鮮語教育に携わるとは夢にも思っていませんでした。卒業後すぐ夜間中学や民族学級、高校の朝鮮語授業などを担当しましたが、今思い起こせば本当に貴重な体験でした。でも、朝鮮語授業そのものはどうだったでしょうか。日本の中の朝鮮語教育を取り巻く状況や学校・生徒の実態等を差し引いても、振り返ると恥ずかしくもあり、情けなくも思います。そんなことを考えていた矢先の98年に研修会がもたれ、私にとって非常に有意義かつ刺激的な出会いの場となり、また自己を振り返る機会にもなりました。

【任喜久子（イム・ヒゲジャ）..大阪府立阪南高等学校* 英語・朝鮮語教諭】

* 普通科国際文化コースの必修選択科目として韓国朝鮮語を開講（1993年）

注1:韓国学校(すべて高等部を含む)は1946-54年に、高級課程を含む朝鮮学校は1945-72年に設立された。

注2:99年度現在、湊川高校では普通科2-4年生の必修科目、広島電機大学付属高校では普通科2年生の必修選択科目となっている。



二人の在日コリアンの思いをこの文章だけから読み切ることはできませんが、「精神的な元手」が多くかかっているほど、あるいは「アイデンティティの模索」に費やした時間が長いほど、二人の韓国朝鮮語教育に対

する思いが強く、深いことは確かです。在日の人々の母国語に対する強靱な思いがあったからこそ、韓国朝鮮語の教育に取り組む高等学校が80年代後半から増えていったといえるのではないのでしょうか。

朝鮮語・韓国語への思い

韓国朝鮮語とその学習者に対するイメージは、70年代初めと現在で大きく違っています。70年代前半の頃、なぜ朝鮮語を学ぶのかと問われた者は、独特の疎外感や緊張感を味わったものですが、いまやそれも昔語りになりました。84年のNHKハングル講座のスタート、80年代後半以後の日本と隣国をめぐる

状況の変化、90年代末の韓国における日本の大衆文化開放の動きなど、さまざまな要因が重なって日本人の隣国観が変化したことが、韓国朝鮮語を学ぶ意味合いを変えているように思います。「なぜ」と問いかける側だけでなく、答える側の隣国観や韓国朝鮮語に対するイメージも変化していると思われます。

「なんで朝鮮語やるの」。学生時代に朝鮮語を専攻していた頃、このような問いかけを受けることがしばしばありました。朝鮮語の授業を開講した今も、時折なぜ朝鮮語を専攻したのかと尋ねられることがあります。「なんで朝鮮語やるの」と聞く人はいても、「なんで英語やるの」と聞く人がいないのはなぜなんだろう、という疑問はその後心の底に流れていました。それが、今の学校で「ハングル基礎」の授業を開講するエネルギーにつながったのだと思います。「なんで朝鮮語やらないの」。そう生徒に呼びかけていきたいと思えます。

【西澤俊幸...長野県立松本蟻ヶ崎高等学校* 英語・朝鮮語教諭】
*普通科の必修選択科目としてハングル基礎を開講(1996年)

私は大学で朝鮮語を専攻しており、韓国に1年間留学してきました。なぜ朝鮮語を専攻したのかという質問をたびたび受けてきましたが、このこと自体、朝鮮語という教科がいまだに日本で市民権を得ていないことを示しています。経済学や英文学専攻なら、その動機をそれほど問われな

いでしょう。朝鮮語を選んだのは、今も日本社会に残っている「朝鮮問題」を知り、それに立ち向かおうとしたからではなく、外国の一つとして「朝鮮」のことを知りたいという、今ふらの軽い動機からでした。そんな私でしたが、日本で朝鮮語に関わっている方々との出会いや韓国留学中の経験を通して、今は日本で「朝鮮」のことを広めたいという思いに駆られています。

【宗像由記...大阪外国語大学朝鮮語学科 4年生】

韓国に着いてすぐというか、しばらくの間は何となく韓国に来たという実感が湧かなかったけれど、道を歩いていて、話し声が聞こえ、韓国のことばが聞こえてきた時、ああ韓国に来たんだなと思いました。たったの3日間だったけれど、韓国のことばの音に耳が慣れてくると、日本に帰って聞こえてきた日本語が、とても変な感じに聞こえました。

【大久保まゆ...熊本県立菊池農業高等学校* 2年生】

*韓国全土の農業高校と交流を始めて10年後に1年生必修で韓国語を開講(1997年)

ここに紹介した三つの文章には、30代半ば、20代前半、10代半ば、それぞれの年代が持つ「朝鮮語」「韓国語」に対する思いや感じ方が表れているのでは

ないのでしょうか。安易な一般化は避けなければなりません。世代間における隣国とそのことばに対するイメージの違いを読み取ることができると思います。



注3: <イムニダ>は、日本語の<です>に相当する韓国朝鮮語の語尾である。

全国のイムニダ先生たち

韓国朝鮮語の教育を導入する高等学校は、数は決して多いとはいえませんが、90年代に入って全国的な広がりを見せるようになりました。担当教師の多くは常勤・非常勤の講師ですが、英語、国語、社会科などの教科を担当する教師が教えている例も少なくありません。これらの教師の個性や韓国朝鮮語に対する

思い、各学校の取り組みや導入のいきさつはさまざまです。多様であったからこそ、全国的に広がったということもできるでしょう。教師たちの思いの一部を紹介します。菊池農業高等学校の教師は、生徒からイムニダ^{注3}先生といふあだ名で呼ばれています。

韓国の学生を自宅に受け入れ、寝食を共にし、身振り手振りで心が通じ合うようになったかと思うと別れ、互いに涙をボロボロ流し、抱き合って最後の握手。手のひらの温もりが残るだけに切ないのです。「せめてカタコトでも韓国語を喋れたら」「せめてハングルだけでも読むことができれば」 積み積もった思いが学校に届けられ、1年生全員に1単位の「韓国語会話」が導入されました。1年生全員を対象とすると容易ではありません。韓国に全く興味を示さない子、興味はあるけどハングルになじみなくてという子、さまざまです。だから、我々はcultivateの時間だと思っているのです。韓国の人たちの暮らしぶりやエピソードを紹介しながら、少しでも韓国を、韓国の人びとを身近に感じてもらえればよいと思っているのです。授業も、子どもたちが使えそうなフレーズ、興味を示したフレーズを口で覚えさせます。韓国の生徒たちと会って遊ぶことを大前提にしているのです。

【馬場純二...熊本県立菊池農業高等学校* 国語教諭】

*3ページのコラム参照

10年前の春、ある朝目覚めると、私は韓国語をやることになっていました。それは、ずっと前からそう決まっていた宿命のようでもあり、また、夜のあいだに神と交わされた契りのようでもありました。自分が、その決定をなんのためにもなく受け入れていたのは、今思い返してもとても不思議なことですが、私と韓国語との出会いは、こんなふうでした。始まって半月が過ぎてしまっていたラジオ講座には、結局ついていけませんでした。その後も、何度となく挫折しかけました。しかし、そのたびに「こんな面白い言語、こんなに素晴らしいことばを、どうして今まで知らずに年をとってしまったのだろうか」という「無念さ」が、私をひきとめるのでした。選択地理で韓国語講座を始めたのも「私のように隣の国をまったく知らないで、高校を「出て行く」学生の数を、一人でも減らし……私の味わった無念さを、これからの若い人々には経験させたくない」と考えてのことでした。(「」内、渡辺吉緒+鈴木孝夫著『朝鮮語のすすめ』からの引用)

【山下誠...神奈川県立岸根高等学校* 社会科教諭】

*地理の自由選択科目として韓国語を開講(1999年)

注4: 97年度の文部省調査
注5: 日本修学旅行協会資料

韓国朝鮮語を学んでいる高校生は、いまでは3,900名^{注4}を超えていると推定されます。修学旅行で韓国を訪れる高校生も、年に4万名近く(96-98年度の平均)^{注5}います。TJFの調査によれば、韓国朝鮮語教育を現在実施しているか、以前実施したことがある高等学校は全国に約170校あり、韓国に修学旅行を実施する高等学校は、96年度以後、毎年230

校近く^{注5}に及んでいます。韓国朝鮮語教育に取り組む高等学校がこのように全国的に広がるとは、70年代初めに予想できたでしょうか。現在も、高等学校全体から見れば少数であることに変わりはありませんが、韓国朝鮮語が以前ほどは違和感を伴わないで学校教育に受け入れられるようになったことだけは確かです。



孤軍奮闘してきた全国の教師たちの出会い

高等学校の韓国朝鮮語教育が全国的に広がりをみせ始めたとはいえ、それに関わってきた教師や学校関係者が情報を交換したり、悩みを話し合ったりする機会はほとんどありませんでした。このような状

況におかれていた教師たちに出会いの場を提供したのが、98年8月に開催された第1回の高等学校韓国語教師研修会でした。

第1回教師研修会:1998年

長年、韓国朝鮮語の教育に尽力してきた大学教育関係者、それを支援してきた駐日韓国大使館・韓国文化院、高等学校の外国語教育におけるアジア言語を重視し、韓国朝鮮語教育を支援するための実態調査を始めていたTJFの三者の考えが一致し、研修会の企画がまとまりました。短い募集期間であったにもかかわらず全国から多数の参加申し込みがあり、研修会が実現しました。

第1回教師研修会は、韓国朝鮮語教育が抱える問題を高校教師たちとともに考えてきた、さまざまな分野の人々の思いが一つになったからこそ実現できたといえます。講師として研修会の指導に当たった梅田博之氏(麗澤大学大学院教授)の韓国語教育セミナーでの祝辞の一部を紹介します。セミナーは、同じく研修会講師である金東俊氏(神田外語大学名誉教授)が発起人となり、99年2月にスタートしました。このセミナーが母体となって、4月に日本韓国語研究会が設立されました。大学や民間の教育機関、高等学

校などの講師を中心に会員は約100名を数え、高校関係者も15名ほど参加しています。

第1回研修会の参加者の発言から

集まるだけでも意義があった。ややもすれば孤立し、独りで授業に携わっている私たちが、これだけたくさん仲間に出会えただけでも勇気が出たように思う。

どのように授業展開をしたらいいか一人で悩んでいたの、こうした機会に教育実践が聞けてよかった。

ずっとネットワークを望んでいたの、とてもよい刺激を受けた。



韓国の日本語学習者の数は、現在世界第一位であります^{注6}。韓国における日本語教育が盛況で学習者・研究者が非常に多いのに対して、日本の方は韓国語を学習する人がきわめて少数で、日韓の語学教育の状況はまだたいへん不均衡な状態にあるといわざるを得ません。よく貿易の不均衡が問題になりますが、言語文化の学習も相互主義を原則とするべきだと思います。韓国のことわざに「語り掛ける言葉が美しくれば返ってくる言葉も美しい」というように、相互主義の上に交流や理解がなり立ちます。われわれはもっと韓国語の学習に力を注がなければなりませんし、その意味で先生方のご努力は何にも増して尊く貴重なものであります。(梅田博之)

注6:国際交流基金の「1998年海外日本語教育機関調査」仮集計によれば、海外の日本語学習者は209万人。そのうち韓国の学習者は95万人(45.3%)。また、初中等教育機関での学習者139万人のうち、実に73万人(52.7%)が韓国の学習者である。



第1回研修会の最終日に5名の世話人が選ばれました。その後、東京で2回世話人会を開き、研修会のあり方を含めて高等学校の韓国朝鮮語教育について議論し、世話人会だより「물결(ムルキョル、波)」を発刊することにしました。創刊号に「将来的には教師研修事業などを運営する組織として、高等学校

韓国朝鮮語教育研究会(仮称)の発足を検討したい」と記されているように、研修会参加者の感動は世話人会に受け継がれ、全国的なネットワーク組織の青写真がつくれたのです。その努力が99年の第2回研修会における高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク立ち上げの大きな推進力となりました。

第2回教師研修会:1999年

第2回研修会の初日、世話人会から活動経過報告と高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの立ち上げ、会則案に関する提案が行われました。研修会の参加者の多くは、ネットワーク組織立ち上げの呼びかけにすぐ応じたわけではあませんが、2日めの夜、地域ブロックごとに集まって遅くまで話し合うなかでネットワーク結成の意思を確認し、以下の通り地域ブロックの活動内容にまで議論は及びました。こうして、研修会の最終日にネットワークが立ち上がりました。

東日本ブロック(北海道・東北・関東甲信越地域)

高校再編や総合学科の開設に伴う韓国朝鮮語教育の機会が拡大するなかで、学校内の協力者とともに非常勤講師(ネイティブ・スピーカーを含む)のサポート態勢をつくる

日韓間の高校生交流、ペンパル、ビデオレターの交換などにも、ネットワークとして対応する

授業実践の実態を互いに報告しながら将来の方向を見出す

メールの利用を含めて日常的な情報交換を行う

西日本ブロック(北陸・東海・近畿地域)

模擬授業の実施、教材研究、教授法、教師研修など、授業に役立つ研修・研究を行う

韓国朝鮮語教育に関する講演会、ガイドライン・共通教材づくりを行う

西日本地域固有の状況をふまえ、韓国朝鮮語教育に携わる教師相互の情報交換を促進する

朝鮮語教育研究会^{注7}との連携を検討する

南日本ブロック(中国・四国・九州・沖縄地域)

講師を招いて勉強会、ハングル弁論大会、チマチョゴリ・コンテストなどを実施する

ホームステイ先のリストづくりなど、姉妹校どうしの生徒間交流と準備のためのノウハウを交換する

他ブロックの協力を得ながら、教材のどまめ(教科書づくりの基礎作業)に着手する

ブロックの広報紙を発行し、教職員間に留まらず生徒どうしの交流もめざす

注7:99年3月に大阪で発足した大学教育関係者を中心とする組織。

ネットワーク活動の始まり

昨年10月、東日本と西日本の第1回ブロック交流会が開催されました。ブロックごとの活動は、高校教師だけでなく高校教育に関心を持つ大学教育関係者や学生を含めて、地域ごとに定着しつつあります。

東日本では3ヵ月ごと、西日本では2ヵ月ごとに交流会を開いています。南日本ブロックでは、2月11・12日に熊本県立菊池農業高等学校で開催する研修会(1泊2日)で今後の方向を決めることにしています。

第3回高等学校韓国語教師研修会の開催予定

会期:2000年8月18日(金)~20日(日)
 会場:大学セミナーハウス(東京都八王子市)
 主催:駐日韓国文化院・国際文化フォーラム(TJF)
 運営:高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク
 参加費:15,000円(宿泊費・食費として)
 *往復の交通費は主催者が支給します。
 詳細はTJFにお問い合わせください。

東日本ブロック

昨年10月9日、TJF(東京)の会議室で東日本ブロックの第1回交流会が行われ、15名が参加しました。増田忠幸さん(都立日比谷高等学校のハンゲル講師)から、授業で気をつけている点について、実際に用いている教材等を示しながら報告がありました。黒澤真爾さん(自由の森学園の韓国語講師)からは、今春開講する関東国際高等学校の韓国語コースについて報告が

ありました。報告に続いて意見交換を行いました。情報交換のレベルから抜け出して、ある目標に向かってブロックとして動き出すまでには、参加者それぞれのニーズを探り出すためのワークショップが必要なようです。1月の交流会は、各講師が毎年行う年度初めの授業プランと高校授業の基本単語がテーマです。

西日本ブロック

昨年10月9日、大阪府立阪南高等学校で第1回の西日本ブロック交流会が開かれ、28名が参加しました。府立佐野工業高等学校定時制の林章子イム・チャンジャさんが授業実践報告を行い、府立住吉高等学校ほか4校に勤務する鄭一珠(チョン・イルジュ)さんが、参加者を生徒にして模擬授業を実施しました。その後、活発に意見交換を行いました。教員免許の問題、楽しい授業のやり方、教科担当以外の教師や学校の態勢の問題、定時制高校での授業、人

権教育との関わり、学習内容の進度や教材など、テーマは多岐にわたりました。

また、昨年11月28日には<学習のめやすづくり>のための第1回会合が大阪・鶴橋で開かれました。高等学校や大学で韓国朝鮮語の教育に携わる5人のメンバーが集まり、高校の授業実態を調べるためのアンケート用紙の作成、視聴覚教材や伝統楽器チャンゴなどの民族教材リストの作成について検討しました。

南日本ブロック

中国・四国・九州・沖縄地域を擁する南日本ブロックでは、昨年11月末に研修会やブロック交流会に代わって情報を提供する『南日本ブロック通信』を独自に発行しました。創刊号に掲載された

ユン・ミギョンさん^{注8}の「私はもう一人ではない」と題した第2回研修会の体験記から、教師たちが研修会で得た感動やネットワーク設立に対する期待感がひしひしと伝わってきます。

今度の研修では、同じ悩みを持った多くの先生たちと出会い、自分の心配や苦勞は、諸先輩に比べて甘いものであったと反省する一方、同じ悩みをもつ同年輩の人たちと話し合うことができました。英語教育と異なり、韓国語教育はまだ広く認知されておらず、教師どうしのネットワーク・共同研究も始まったばかりです。教養として身につ

ける大学の韓国語教育とは一線を画して、情感ゆたかな高校生に、韓国語をどのように教えるべきか 本当に難しいことだと感じながら、東京を後にしました。しかし、私はもう一人ではおれません。多くの先輩や友人と出会いました。これを私の一歩として、みなさまとともに歩み続けていきたいと思います。(ユン・ミギョン)

韓国・朝鮮語の授業広がる 高校教師ら全国ネット

「ハンゲル」講師
 朝鮮語の授業を始める高校が増えている。これら授業を担当する教師らのつながりを深める目的で、東「韓国朝鮮語教育ネットワーク」という全国組織が誕生した。メンバーは、茨城県教育委員会、期せずとも全国に広がっている。ハンゲルなどの授業を始める高校は、1990年代に入ってから増え、政府系団体の国際文化フォーラムなどの調査によると、現在、首都圏を東西、九州を中心に約七十校(うち公立校約七校)が授業を開始している。アジアの言語では年々急増した中国語のほかに、韓国語の授業も増加している。韓国語の授業は、韓国文化院や国際文化フォーラム

この授業の質を高める。また、全国共通の教材を開発し、ハンゲル講師を養成した生徒たちを、韓国向けの教材づくりに活用する。現在、全国の漢語教育は、英語の次に盛況を呈している。ネットは、全体的には、まだ中立的なレベルだが、一部の教師は、この取り組みの重要性を認識している。知恵を求め、現教師の

行をきかずに授業を受ける高校は少ない。長野の生井、鹿嶋の藤澤、津田の「ハンゲル」講師を養成した生徒たちは、韓国向けの教材づくりに活用する。現在、全国の漢語教育は、英語の次に盛況を呈している。ネットは、全体的には、まだ中立的なレベルだが、一部の教師は、この取り組みの重要性を認識している。知恵を求め、現教師の

朝日新聞に掲載された研修会に関する記事の一部(99年8月23日)

注8:佐賀県立唐津商業高等学校のハンゲル講師。同校では、1992年度から商業科の必修・自由選択科目としてハンゲル講座を開講している。